

# マンガで学ぶ予防接種

～染子先生のおはなし～

その②

## 肺炎球菌ってなあに？

～小児用の肺炎球菌ワクチンについて～

国立感染症研究所 感染症疫学センター

まなぶ  
学くん



は、鼻！？

今回は子ども<sup>学くん</sup>の  
鼻の奥にいる  
肺炎球菌に  
ついてよー！

そめこ  
染子先生



肺炎球菌は子どもの細菌感染症の、二大原因のひとつです。

肺炎球菌が起こす病気には髄膜炎のほかに、菌血症(血液の中に菌が入りこんだ状態)、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎などが挙げ

られます。ワクチン導入前は5歳未満人口10万人あたり

2.8人前後が肺炎球菌による髄膜炎にかかっていました。

2010年にワクチンが導入されたことにより、2013年には

5歳未満人口10万人あたり1.1人まで減少しています

(厚労科研神谷・庵原・菅ら)。

肺炎球菌が  
引き起こす  
髄膜炎は

その①で学んだHibによる  
髄膜炎よりも頻度は少ないけど  
命にかかわることや  
後遺症の頻度が高いの



それらを予防するための  
小児用肺炎球菌ワクチン  
なんだね……

小児用肺炎球菌ワクチンは2010年に7価ワクチン

として接種が始まり、2013年より

13価ワクチンに切り替わりました。

現在は100か国以上の国々で使用されています。

多くの国から、ワクチン接種の効果で

肺炎球菌による髄膜炎や菌血症などの重篤な

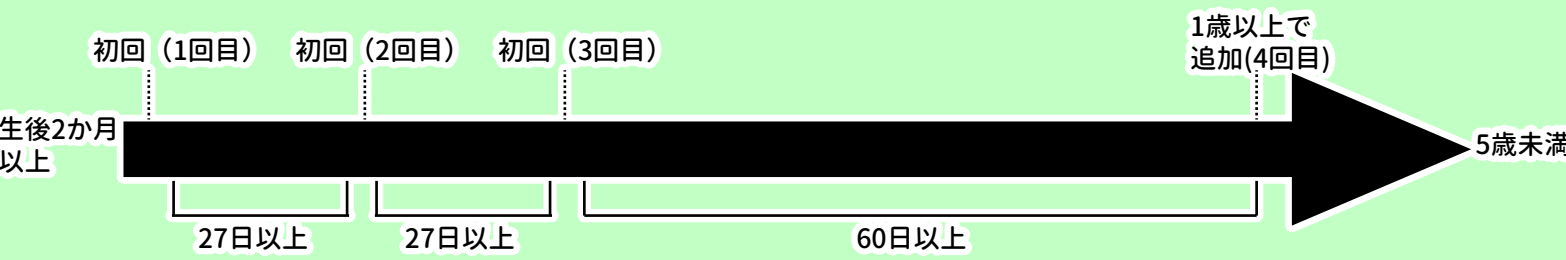
肺炎球菌感染症が減少していることが

報告されています。



# 標準的な接種のしかた

〔接種年齢〕 生後2か月以上5歳未満（初回接種開始が生後2か月以上7か月未満の場合）  
〔接種間隔・回数〕 初回はそれぞれ27日以上あけて3回、追加は初回終了後60日以上あけて1歳以上で1回（合計4回）。最初の3回は1歳になるまでに終了させ、1歳以降に1回追加。いずれも1回に0.5mLを注射します。



四種混合(DPT-IPV)ワクチン、  
HibワクチンやB型肝炎ワクチンとの  
同時接種は、医師が特に必要と認めた  
場合、保護者の同意のもとに接種可能です。

初めて接種を開始する月齢が生後7か月を超えてしまった場合、あるいは1歳以上2歳未満の場合、2歳以上5歳未満の場合は、それぞれ接種の回数が異なりますので、お住まいの市区町村、保健所、あるいはかかりつけの小児科にご相談ください。

うんっ！  
不安な時は  
お医者さんに  
相談よ！  
接種部位の  
紅斑(発赤)  
67.8~74.4%  
腫脹(はれ)  
47.2~57.1%  
発熱(37.5℃以上)  
25.0~32.0%  
副反応は  
接種したところの  
発赤や腫れ  
発熱が  
挙げられるわ  
(出典:平成25年度予防接種健康状況調査集計報告書)